

Rotary



白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

創立 1986 年

2022~2023年度クラブ目標

『想像しよう、未来のロータリー
創造しよう、これからのクラブ』



イマジン
ロータリー

会長 高 畠 裕
幹事 車 田 裕 介



2022-23年度国際ロータリーテーマ

第1757回例会

令和5年5月11日(18:30~19:30)

○ソング

- 君が代
- 奉仕の理想

○ビジター

矢吹RC会長 遠藤武士様、白河青年会議所 鈴木恒平様（財政室担当副理事長）、高橋和弘様（専務理事）、庄司暢様

○スマイルBOX

- 矢吹RC遠藤武士会長（先月夜会合に多数御出席いただきありがとうございました。久しぶりの観桜会、賑やかに開かれたこと感謝します。）
- 高畠裕会長（矢吹RC会長遠藤様、青年会議所鈴木副理事長、高橋専務、総務庄司委員の皆様、本日はようこそおいでくださいました。コロナも5類となりましたが引き続き対策をお願いします。）
- 池田浩章会員（矢吹RC遠藤武士会長、白河JC鈴木さん、高橋さん、庄司さん、ようこそ。息子が大変お世話になっております。今後もよろしく願いいたします。）
- 松永紀男会員（遠藤会長、先日はいやさかでの楽しいカラオケ大会ありがとうございました。JC鈴木副理事長、高橋専務、ようこそロータリークラブへ。庄司様お疲れ様です。白河からの情報発信よろしくお願いいたします。）
- 関谷亮一会員（4月1ヶ月休まして申し訳ありません。誕生祝・結婚祝ありがとうございました。4月1日付福島県土地改良事業団副会長に就任しました。）
- 吉野敬之会員（結婚記念のプレゼントありがとうございました。GW中は救急車に乗せられて郡山の病院で過ごしておりました。あと一時間遅れたら死んでたよと言われ大変怖い思いを致しました。来年の記念日も無事迎えられるように堀田君との付き合いは考え直す事にしました。）
- 堀田一彦会員（JCの皆様ようこそ。卓話ありがとうございました。また遠藤武士様、先日の観桜会ではお世話になりました。）
- 吉田充会員（矢吹RC遠藤会長、観桜会では大変お世話になりました。ありがとうございます。白河JCの皆さん今日は卓話ありがとうございました。）
- 前原俊治会員（誕生祝ありがとうございます。本日5月11日は私の誕生日です。75才になりました。少しボケが始まりましたが、これからも頑張りたいと思います。）
- 永野文雄会員（矢吹クラブ遠藤会長さん、ようこそ。先日の観桜会はありがとうございました。青年会議所の皆様、卓話ありがとうございました。これからもよろしく。）
- 金田昇会員（矢吹RC遠藤会長、観桜会ではお世話になりました。JCの皆様卓話ありがとうございました。）
- 鈴木孝幸会員（結婚祝ありがとうございました。実は今年の結婚記念日は銀婚式だと私的に色々と考えておりましたが、家内に話したところ、「それは去年よ」と冷たくあしらわれました。お詫びも込めてスマイルいたします。）
- 鶴丸彰紀会員（お誕生日のお祝いをいただきありがとうございます。まだまだフレッシュな56才ですので、今後も存分にロータリー活動を楽しませていただきます！）
- 長克則会員（結婚記念日のお祝いをいただき、ありがとうございます。これからも頑張っていきたいと思っておりますのでスマイルさせていただきます。）
- 佐藤清作会員（矢吹クラブ遠藤会長はじめ、御来訪のお客様ようこそ。新型コロナの位置づけが変わり5類となりましたがまだ注意が必要と思われます。私は呼吸器疾患がありますのでマスクが場所によっては不要は助かります。）

▶第1757回例会出席状況 (R5年5月11日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	52名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	66名
Ⓒ ①の出席者数	27名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	0名
Ⓔ ②の出席者数	11名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	38名
Ⓕ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	63
Ⓖ = ⑥ / ⑦ × 100 (例会出席率)	60.3%

▶例会日：第1・第3木曜日(12:30) その他の木曜日(18:30~19:30)

▶例会場：白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局：〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5(白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間



高島裕会長

皆さん、こんばんは。先週はゴールデンウィークでお休みということで、久しぶりにという感じの例会となっております。まず初めに、お客様のご紹介をしていきたいと思っております。まず、矢吹ロータリークラブ 遠藤会長様。続きまして、白河青年会議所 鈴木副理事長。同じく高橋専務。そしてもう一方、青年会議所から庄司委員。青年会議所の皆さんには、このあと青少年奉仕委員会担当の例会ということで、3人のほうからプレゼンをしていただきたいなというふうに考えております。どうぞよろしくお願いいたします。また、先々週の観桜会におかれましては、遠藤会長、本当にお世話になりました。久しぶりに矢吹の地で観桜会を開催し、思った以上に多くの方に参加をしていただき、大変盛り上がるような観桜会だったなというふう感じております。ああいった関係を今後とも続けていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。ということで、皆さんゴールデンウィークのほうはどちらかにお出かけだったでしょうか。私は当然稼ぎ時ということで仕事をしていたんですが、天気も良く連休中は観光地のほうは結構人が出ていたようです。コロナも5月8日には2類から5類に移行しまして、今日も皆さんの様子を見てみると、マスク外されてる方も比較的多くなってきたのかなというふう感じておるところであります。しかし、コロナがゼロになったわけではありませんで、引き続きその辺は個人で対策をしていただき、感染予防に努めていただければなと思っております。また先日、今年の1月19日に開催されました地区の財団の予算を使いました子供の食育の事業に関して、先日報告書のほう提出させていただきました。そしたらですね、次の日に見たことのない電話番号から電話がかかってきました。よくよく確認したら私の不注意で、今年度のガバナーじゃなくて前年度の志賀ガバナーのほうに送ってしまったんですね。ということで、志賀ガバナーも私にきたから開けちゃったよということで、開けた物をそのまま別な封書に入れて送り返してというか、地区の事務所に送っていただいたそうなんですが未だに届いてないという、なんかちょっと報告書がどこかに消えてしまったということで。私としては地区のほうに報告はしており、向こうも了承してくれているので安心しているところではございますが、ちょっとした不注意がこういった事になってしまうということですね。志賀ガバナーのほうには、お手をかけたというお詫びでワインのほうを送らせていただきました。ということで、来月になりますと今度、野球愛好会も甲子園大会のほうに出場するというので、今練習に一生懸命取り組んでいただいているところだと思います。怪我のないように行っていただければなと思っております。また、須賀川ロータリークラブの65周年もあります。そちらもゴルフコンペも兼ねて参加していただければというふう感じておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。今日は月初めの例会ということでこの後誕生祝やら何やらいろいろありますので、会長の時間はこの辺で終わりにさせ

ていただいて、楽しみにさせていただければなというふうに思っております。J.Cの皆さん、今日はよろしくお祈りいたします。

■幹事報告

車田裕介幹事

- 白河市国際交流協議会会長 内藤義久：令和5年度「白河市国際交流協議会総会」の開催について
- 日本事務局 業務推進・IT室：青少年奉仕月間リソースのご案内
- 日本事務局財団室：財団室NEWS 2023年5月号
- ガバナーエレクト事務所 芳賀美宝子：地区研修・協議会 駐車場のご案内について
- ガバナーエレクト 右近八郎、時期会員増強委員長 福柁透：2023-24年度会員増強委員セミナー開催について
- ガバナーエレクト 右近八郎、時期地区研修リーダー 芳賀裕：2023-24年度事務担当者セミナー開催について
- 会長 浅田豊久、幹事 酒井教吉：バギオだより
- ガバナー事務局 佐藤直子：ポリオプラス ソサエティのご案内
- 白河ユネスコ協会会長 小野利廣：令和5年度白河ユネスコ協会総会の開催について（通知）
- 東北地区連盟事務局 福島西RC 久米充彦：全国ロータリークラブ甲子園野球大会 東北地区親睦野球大会 東北連盟 令和5年度代表者会議開催
- ガバナーエレクト事務所 芳賀美宝子：5月13日開催地区研修・協議会プログラムについて

■委員会報告

○親睦委員会

大住由香里委員長



【結婚記念日】

関谷亮一会員、村上堅二会員、吉野敬之会員、鈴木孝幸会員、井上敬裕会員

【誕生日】

前原俊治会員、鶴丸彰紀会員、寺島由和会員、松永紀男会員、堀田一彦会員、運天直人会員、根本あゆみ会員、山田顕一郎会員、石川格子会員



○雑誌広報委員会

前原俊治副委員長



雑誌広報委員会の前原です。5月の「ロータリーの友」の記事のご紹介をしたいと思います。皆さん、まず最初に横組みの18ページから19ページ。「3.11福島被災地をこの目で見よう」という記事が載っております。きっかけは東京オーキッド

世田谷ローターアクトのサガラユウカ会員が福島で震災に遭いまして、その経験した事を皆さんに伝えたいという思いでいたということで、メンバーがそういった気持ちに打たれて、東京池袋西ロータリークラブの企画によりまして、第2530地区並びに仙台ロータリークラブ、静岡ロータリー、東京オーキッド南ロータリー、鴨川ロータリーの皆様が福島に集まってこの企画が行われたということでありまして、ローターアクトが3月11日に浪江町に集まり、福島被災を風化させないように現状を自分の目で確かめ、自分達で何ができるかということを考えようということでこの企画が行われたということでございます。その主な三つのプログラムがありまして、一つは被災施設というか建物とか、そういったものの見学。そして二つ目は、フィールドの視察。そして3番目が、その対話の集会を開くということで、この企画がされたということでございます。そういう記事が載っておりますので、皆さんもう十何年なんですか。なかなか忘れがちですがこの記事を読んで、またもう一度皆様の思い出していただければというように思います。続きまして、20ページから24ページに「ガバナーのロータリー・モメント」という記事が載っております。各地区のガバナーがどのような動きをしてるかということが載っておりまして、いろいろ各クラブにおいていろんな活動がされているようで、これを見ると、今後の西ロータリーの活動にも参考になるかと思っておりますので、読んでいただければというふうに思います。続きまして縦組みの21ページから28ページに渡って、「ロータリー・アット・ワーク」という記事が載っております。各ロータリークラブにおいてどのような奉仕活動が行われたとかということが載っておりまして、その中にウクライナに関する支援活動が、こちらの記事も5か所か6か所で援活動の奉仕活動が行われたという記事が載っております。その中で、今年はウクライナにおいても原発が攻撃されたりとか、暖房施設がうまく取れなかったということで、その方々に、携帯カイロを送ろうと3つくらいのロータリークラブで行われたという記事が載っております。非常にタイムリーな企画で費用的にもそんなに携帯カイロなのでかからないので、非常に良い企画だなというふうに思っております。西ロータリーにおいても、今後の奉仕活動を行うにあたって、こういうタイムリーなあまり費用がかからない奉仕活動もできればいいなということで、いろいろそういった企画を今後実施していければいいんじゃないかというふうに思います。以上、簡単ですがロータリーの記事を紹介をさせていただきました。

○野球愛好会

吉田充監督



皆さん、こんばんは。先程、会長のほうから野球愛好会、頑張ってお練習してるというご報告があったと思うんですが、我々野球愛好会は甲子園の親睦野球大会に向けて、一生懸命毎週土曜日、練習を行っております。また、甲子園大会が6月24、25日に開催されるにあたり、白河西ロータリークラブの貴重な財源である会費の中から、野球愛好会に10万円ほど支出していただいております。この場を借りて御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。そのお金を有意義に使って甲子園大会では是非一勝をしてきたいというふうに考えております。それからもう一点、東北大会が9月29、30日で山形の高畠ロータリークラブ主幹で開催されることが今日の案内のほうに来ております。またこれも大会に参加できるよう福島県は今5チーム程野球愛好会がありまして、そこを勝ち上がらないと東北大会に出れないというふうな形になりますので、これも東北大会に出れるようにメンバー一丸となって頑張っていきたいというふうに思います。皆さんのご協力、応援をよろしく願っています。それに先立って5月27日、再来週の土曜日に二本松ロータリーさんと白河グリーンスタジアムのほうで練習試合を午後3時半から行うことになっております。時間のある方は是非会場まで来て応援していただければありがたいなと思います。その後、「赤門」さんに移動して二本松ロータリーさんと親睦を深める予定になっておりますので、その席にも是非皆さんおいでいただければというふうに思っております。日頃から野球愛好会に対して、本当に会員の皆様の温かい浄財をいただいて本当に感謝しております。今後ともよろしく願いいたします。

○矢吹ロータリークラブ会長

遠藤武士様



皆さん、おばんです。先月の28日夜、大勢の皆さん来ていただきまして大変ありがとうございます。本当に久しぶりに交歓会ができたという事は、私の年度で最後の良い事業になったなと、そういうふうな感じをしております。過日出席した方はご承知かと思っておりますけども、この日本にロータリーを導入した米山梅吉さんの件で郡山においでになった時、父に対して帰り際にいつも温故知新、不易流行というふうな言葉を残されたと。そういうふうな事をちょとお話させていただきましてけども、これは何でそういうふうなことになるかといいますと、米山梅吉さんが今でもありますけども、東京クラブの会員が私の父と兄弟分だった橋本萬右衛門さん。その当時は貴族議員だったんですけども、その方を通じてロータリー云々という話を聞いてた。それで仙台に作るというふうな話が来たもんですから、米山さんに行きか帰りかのどちらかに郡山に降りてもらおうと。そういうふうな事でもって、たまたま郡山ロータリークラブが仙台ロータリークラブに先駆けてできたと。そういうふうな経過がございます。これは米山梅吉さんの年齢というのが、私の父の年齢と同じような年齢だったんですね。それと同時に貴族議員だった橋本さんの関係がありまして、うちの父に対して5回ほど郡山に来ましてそして泊まって、それに対して最初から最後まで次の日の一番の汽

車で東京にお帰りになるまでお付き合いさせていただいたと。そういうふうな経過がございます。そういうことで、私としてはこのロータリークラブを作るについても、矢吹に作るについてもできる10年ほど前から知ってたもんですから、私としては4月の第1週から入れさせていただきましたが、そういうふうな経過でもってきております。私としては今後とも、米山梅吉さんの遺言ですね。これを大事にして運営してこうかなと、そういうふうな感じをしております。今後ともよろしく申し上げます。

■本日のプログラム

青少年奉仕委員会担当例会

○青少年奉仕委員会

堀田一彦委員長



青少年委員会の堀田です。今日は白河青年会議所の皆様にお越しいただきまして、卓話のほうにいただきたいと思っておりますので、白河青年会議所の皆様よろしく申し上げます。

○白河青年会議所

庄司暢之様



こんばんは。お手元に勝手ながら配布させていただいたんですけど、「月間こみっと」というフリーペーパーを作っている、わたくし庄司と申します。皆さん地元白河だと思んですけど、地元って好きですかって聞かせていただいて、好きだよという方を挙げていただいてよろしいですか。皆さん、ほとんど大好きですね。ありがとうございます。良かったです。こういう情報誌作ってるんですけど、ウェブ広告が今すごく主流になった時代なんです。その中でも情報誌が存在できる可能性があるところってどういうところかなっていうと、まず地域内が圧倒的に強い所だけが我々のような情報誌って使うのに生きてけるんです。逆に、東京とかでこういった情報誌ってというのは全く生きてけないというか、専門誌では生きてけるんですけど、我々地域情報誌ってというのはあんまり生きてけないというところがあります。あと、地元の企業、会社が存在している、その地元独自の会社があるということ。あとは子育て世代が一定数の割合にいるというところがすごく大事です。だから、我々急なお話だったんですけど、白河に「月間こみっと」という情報誌を、昨年から発行させていただいてるっていうものがございます。それで情報誌って何やってるのかという、地域経済活動を広告業を通して少しでも活性化させるっていうのを目標にしてる会社でございます。

「月間こみっと」のご紹介させてください。2023年5月現在なんですけど、3万2千部印刷発行しております、白河市、西郷村、泉崎村、2市2村。実際に印刷してご自宅まで届くフリーペーパーをやっております。全部じゃないですがおよそ80パーセントくらいのご自宅には届くというようなフリーペーパーを作らせていただいております。先に僕の自己紹介からさせてください。わたくし36歳で庄司暢之と申します。出身が山形でして、大学卒業後に山形の広告代理店に就職しまして、その後福島県内の広告代理店に転職し、その後すぐ会社の辞令で須賀川、鏡石の「月間すかっと」という情報誌があるんですけど、そこに今出向とい

う形で行っていて、昨年白河、西郷のほうに来て「こみっと」というのを作っている者でございます。「月間こみっと」作っている「エリア・マークス」という会社なんですけど、出版社というよりは実は広告会社という系統になってまして、何が違うのっていうと、一般的に出版社っていうと本を発行してその収益でやっていくという形なんですけど、弊社はそうじゃなくて広告会社の中でそこで広告の出稿料いただいて雑誌を発行してやってくというスタイルの会社です。その広告って何のために出すんですかっていうところでお話させていただくと、広告って何かというと文字どおり僕は広く告げるものっていうふうになってます。なので、広く告げるものっていうと広告っていうと、一般的にこういうスーパーのチラシとかハウスメーカーさんの内覧会チラシですとか、衣料品屋さん、服屋さんのチラシとかっていうイメージが多いと思うんですけどそれだけじゃなくてですね、実際イメージ広告と言われる課外塾さんでいうと、例えば自分の夢まであきらめないでとか、自己採点しないとか、あと選挙の啓発広告なんていうのを広告なんです。僕がすごく信じてる事があって、広告には世の中を変える力があるというふうになってます。なので、本当にそういうのって実際に歴史を見てもこれからちょうど7月に土用丑の日ってあると思うんですけど、土用丑の日ってそもそもこれ僕も知らなかったんですけども、ウナギの旬って皆さんいつかご存じですか。冬らしいんですね、僕も知らなかったんですけど。そもそも冬が旬で、売れないから土用丑の日だっていうふうにやったというのが、江戸時代に平賀源内さんが提案して、それが世に広まったのが今の土用丑の日っていう文化らしいですね。例えば、私実際中学校の頃、まだ記憶あるんですけど、急に2月3日恵方巻だって言い出したって凄い記憶があって。なんかそれまで節分という、豆撒くだけでしたよね。それが急に2000年くらいから、なんか恵方巻でこの方向みて無言で太巻き食うんだみたいな文化になっていったっていう。これ本当に僕広告の力だなと思っていて、あと3月14日のホワイトデーなんかも、実は一店の福岡のお店から始まったキャンペーンだそうですね。マシュマロ柔らかいから優しさで返すよみたいな、そんなイメージでキャッチコピーで1977年に始めたものなんです。そうやってこう世の中ってどんどん変わっていった。例えば、サンタクロースって皆さんどんなイメージありますかかっていうと、今ちょっとご覧いただくとあれなんですけど、この赤い格好の髭もじゃのおじさんといえばサンタクロースのイメージだと思うんですけど。これ実は1931年、今から80年、90年くらい前かな。コカ・コーラの広告でサンタのイメージってこれだって出したんですって、新聞広告で。それが今、世に定着していった今のサンタになったという事らしくて。それまで実はサンタって妖精的な意味で、小人だったりしたり髭がなかったりしたっていう事なんですって。こうやって世の中ってどんどん変わっていくんだっていうふうになってまして。弊社が情報誌を作ったっていう背景から、すいません、話飛ぶんですけど話させてくと、これ向かって左側に見えるのがこれゴールデンタイム、いわゆるテレビの7時から9時までの視聴率のグラフなんですけど。一番向かって左側ですね。左側が1997年。僕が小学校の時の数字なんですけど。ゴールデンタイムって実際70パーセント以上の人がみんなテレビ見てたんですって。7割です。

もっと前でいえば、もっと高かったらしいですね。一番全盛期って「巨人、大鵬、卵焼き」なんていう言葉があったらしくて、子供の価値観って一定でみんな同じ価値観だというくらいあって、それが実際今年になってくると2023年なんて50パーセント切るんじゃないかって言われていて、7時から9時という時間であってもテレビを付けない家庭が半分以上になっているってふうな数字も出ていて。それと一緒に新聞の発行部数も97年の時は5千3百万部以上あったんですが、今はもう3千部を割ろうとしています。そのくらいだんだん皆さん、新聞テレビというのは見なくなってきたというのが時代背景としてあって。これってどういうことなのかというと、価値観が多様化したんですよ。皆さん、いろんなインターネットだとかユーチューブだとかTikTokだとか、いろんなものを見ていくという事によって、本当価値観が多様化してすごく良い事なんですけど、その反面逆に言うと共有する話題というのが全くなくなったんですよ。今の小学生である程度人気ユーチューバーの話にはなるらしいんですけど、僕が子供の時のような、例えば昨日何々の番組見た、見たみたいな共通の話題って小学校でだいたいなくなったという話を聞いてくと、そういう時代なんだって。もっと言うと会社もそうですよね。昨日何々見たって朝、会社で話した人っています。いないですよ。僕も今、話せないかなっていう時代だなんて思っていて、共通の価値観がなくなったんですよ。そこで私どもがやりたいのは何かというと、特定の地域だけでも共通の話題を届けて一つのムーブメントを起こせないかっていうのが、わたくしがやりたいことなんです。そんな思いで持ち上げたのが2016年ですね。今から8年前ですか、7年前ですね。7年前に、須賀川、鏡石で「月間すかっ」というフリーペーパーを始めさせていただきました。それで、それから6年かけてようやく去年ですね、白河、西郷で「月間こみっ」とって、今お渡ししてるフリーペーパーを発行させていただく形になりました。現在「月間すかっ」が須賀川市を中心に9市町村でカバーしている、一軒一軒配布しているフリーペーパーで、今5万3千部超えるフリーペーパーやっています。そして、白河では3万2千部やってるフリーペーパーになっています。それでなんか調子よくここまでこれたというところというわけでもなくて、ものすごく心配もしましたし、実は迷走もしましたし、凄い赤字もこきながら今までやってきたという情報誌でございます。実際にですね、僕もかなり飛び込み営業というスタイルで一軒一軒、もしかしたらうちの営業が皆さんの会社に急にお邪魔したこともあると思うんですけど、結構言われるんですね。こんな田舎で本当に情報誌作るのみたいな。もって半年なんじゃないですか。これに本当に広告出すのって実際にすごく言われてきました。今まで、特に須賀川なんかでは最初めっちゃくちゃ言われましたね。「すかっ」作った時って、本当に「すかっ」って本当に必要なのかななんて、もうはなはだ疑問でした。やればやるだけ赤字でした。実際に我々、お店に広告枠を販売してその広告を買ってもらったお店を取材してその収入だけでですね、情報誌を発行して行って、その情報誌でお客さんが少なくても来てもらえればお店の売り上げが上がるという循環でやってるとというのが、弊社のビジネスモデルなんです。我々が何を一番大事にしてるかというと、先程申しあげてますけど、一軒一軒手配りで人の家に無許可ポス

ティング方式と呼んでるんですけど、新聞屋さんみたいに契約もしてないですし、郵便屋さんみたいに必ず届くというものでもないんですけど。勝手に人の家に届けるフリーペーパーです。その中で地元の話にこだわってます。そして、全世界が安心して読めるものにしようというのをすごく大事にしてまして、この難しい漢字とか、特定のものとか、特定の思想、そういうのに寄らないようにしましょう。みんなが安心して読めるものを作ろうという思いでやってきました。実際、営業すごく行ったんですけど、本当に周りから言わせるとうちの広告費って結構高いんですね。特に須賀川で最初の時ものすごくこれ言われました。こんなにするのって言われました。これ何でかということ、当時須賀川って地域情報誌と新聞があったのですよ。「ママタイムス」と「アブクマジホウ」というんですけど。地元新聞にあって、それに広告出すのが割と須賀川ならではの文化だったんですね。白河にかつて新聞社存在したらしいんですけど、そこに比べると10倍くらいいたんですね。広告費ということ。なにぶん広告費だけでやっているというのがありますし、部数が10倍くらいあるのでそういった開きはあったのかなというふうに思っています。それでも、我々取りあえずすべてのお店、会社に営業行こうと言いまして、多分須賀川でうちの会社ほど飛び込み営業した会社って多分存在しないんじゃないかくらい取りあえず全部行きましたね。それでそこまでやったんですけど、それでも大赤字だったんですね。実際にうち、最初グループ企業から始まったので、親会社というんですかね、親会社の社長からも凄く言われましたね。いつまでこれ続けるんだって言われまして、そこで僕凄いなって弊社のこれ社長の佐藤って者なんですけど、周りから物凄い言われても待ってる人がいるからやめないんだって当時言い出したんですね。僕も当時出向所員だったので、やめたら早く本社戻りたいなって思ってたんですけど、ああ続けるんだなんて思ってやってみて、でも実際にその時すごく言われたのが、情報誌作ってくれてありがとってすごい言われました。毎月楽しみにしてるんだと。本当に出したらお客さんいっぱい来たよと言ってもらった事もあります。我々って本当にその地域社会に貢献してもものすごく大事にしていて、地域の経済を活性化に我々は本気でなると思って、実は情報誌っていうのを作っているんですね。これを見ることによって少しでも地域が明るくなって町が賑わう。そういうのを継続的に作り出すのが、我々のミッションだと思ってやっています。でも、このままではうまくいかないなと思って僕も企画考えました、当時。何したかということ、巻き込む人数をとにかく増やすという、布教活動みたいな感じなんですけど、とりあえず関わって人数どんどん増やしていこうと思ったんですね。それで僕何考えたかということ、当時はスナップ写真、とりあえず写真いっぱい載せとけっていう、すごいシンプルな戦略なんですけど。紙面にとにかく人をいっぱい当時出したんですよ。今も結構出してるんですけど、実は僕7年間で一万人以上の人の写真撮ってるんですね。一万人って「すかっ」のほうの数って人口って大体10万人くらいの町なんですけど、大体10人に一人は一回は出たことあるっていう計算なんです。そうなる、もうさすがにみんな大体一回は関わってるなという感覚になるので、何となくみんな知ってるものになっていくという。あと、弊社もともと僕も最初に自己紹介さ

せてもらいましたけど、広告代理店の人間だったので、あくまでこの粹買ってくださいというだけじゃなくて、トータルプロモーションしてこうというふうに思ったんですね。本当何でもご相談くださいという話をさせていただいて。その中の事例として、例えば玉川村さんでやらせてもらったのがミュージックビデオを作らせてもらったりして、情報誌がミュージックビデオ作るってあんまりしたことないと思うんですけども、実際その村をどうやったら活性化できるかっていうのを、当時玉川村と話して、じゃあミュージックビデオを作ってそれで村のPRしましょうというのを提案させてもらって、その取り組みを情報誌に載せてやってくというスタイルをしたりですね。あと学校法人石川義塾さん、学石さんですね。でも同じような形でミュージックビデオを作りましょうと言って、当時卒業生の作曲家さんと一緒に曲を作らせてもらって、それミュージックビデオを作ったんですね。これ実際、確か7万再生回数くらいになりました。全国で7万人の方々これYouTubeあげたらみんな面白いねって見てくれて。そうやって少しづつこう浸透していったんですね。あと結婚する人を少しでも応援したいなと思ひまして、テレビ番組ちょっと真似たんですけど、プロポーズする人を全力で応援したいと思ひまして、これムービーまで撮ったんですけど。須賀川でプロポーズしたい男性というのを募集しまして、その人をずっと追ってプロポーズしているシーンを本当に映像に載せるという企画とかを、情報誌の我々がやらせていただいたりとか、そういう事をしていくとやっぱりだんだん反響がすごく良くなっていて見る人もすごく増えたんですね。実際どのくらいかという、まずおよそ6割の方が自宅に1か月間保存してるよっていただいて、2割の方に関してはバックナンバーまで全部持つてるよってもらって、あくまで読者アンケートなんですけど。だからいろんな方々が皆見るよねっていうので、情報誌としてすごく反響あるよねっていうのが、「月間すかっと」というフリーペーパーでした。僕もさすがに自信持って、これでいいんだなと、これが正解だと思うようになりました。2020年、コロナ禍になるんですね。コロナ禍になった時に、さすがに我々もどうしたらいいんだろうと。人を集客するなという時代が来ると思わなかった。我々広告屋にとって一番何していいんだろうなってすごく思ったんですね。その時に、一番僕が辛いなと思ったのは子供たちでした。マスクして家に閉じ込められているという子供たちがいるという、何とかできないですかねという読者のほうからお声がけがあって、この子達に何とかしたいなって当時本当に思ひまして。それで岩瀬牧場という鏡石町の牧場があるんですけど、そこの牧場さんにちょっとお話をして、日本一の迷路を作れないですかってお話をしたんですね。当時それを、まあこれ山形で僕先程申しあげた地元が山形なんですけど、山形の鶴岡市でやってる企画なんですね。デントコーンという高さが3メートルから4メートルもある凄い大きい牛の餌用のトウモロコシなんですけど、これを植えるんですね。植えて一気に刈るという迷路を作ったんです。これ道幅が大体3メートルぐらいですかね。実際に子供たちがマスク外して歩けるような迷路を作りたいなと思って。実際、日本一にはならなかったんですけど、サイズでいうと。調べたら日本一の迷路って北海道になんか全長10キロくらいある迷路で、さすがにそこはでき

なかったんですけど。我々が作ったのは全長2キロを超える迷路で、東北だとトップクラスの大きい迷路だったんですね。実際に岩瀬牧場に2万人くらいお客さん集客できて、もともとコロナ禍で何かできないかなって思って取り組みだったんですけど、すごく評判良くて、全国ニュースになってもものすごく人が増えたという、本当に良い事例だなと思ってます。その勢いで社長が白河にも情報誌を出そうと言ったんですね。僕当時は、いやまだそれ無理ですと、本当社長止めてくださいと申し上げたんですけど。やっぱりエネルギー使うっていうのと、この先見えないというのがすごく当時ありまして、かなりお金もかかるというのが重々わかってたので、いくら「すかっと」がだんだん調子良くなってきたからってすぐできないということもあったんですね。それで始めたのが、テスト版として去年2月に春号というの発行させていただきました。これその時やっぱりコロナ禍真っ只中だったので、どうしようかなと思ひまして、少しでも町の方々元気にしたいなと思って、これ実は全部無料で掲載させていただいたんですけど、飲食店さん皆さんにお声がけさせていただいて、一軒一軒人を出すというような事をすごく大事にしていて、顔が見えるもの作りたいなというのがありまして、お店の方にご協力いただきましてですね、こういった広告というか情報を居酒屋の皆さんを中心に載せてもらったという事があって。実際、出した時やっぱりものすごく反響良かったんですね。出したら読者アンケートで90パーセントの方々が面白かったって判断していただいて、普通だったよと答えた方が2パーセントで、面白くなかったと答えたのが0人だったんですね。すごく嬉しいなと思ひまして。で、どんな情報が一番楽しかったですかという、やっぱりグルメ情報が面白いと。僕はこれ春号って出して、次夏号って当時出したんですね。年に何回読みたいですかって聞いたんですよ。春号、夏号って聞いて、年何回読みたいですかと聞いたら普通4回と答えるなと思ったんですけど、60パーセントの方々とか、そうですね6割の方々が毎月読みたいってお答えいただいたので、社長が「ほら、月間だろう。」と言ひ出しまして、「マジですか。」って当時すごく止めたんですけど、じゃあやりますかって言って始めたのが去年なんですね。本当すいません。なんかダラダラというかご紹介だけだったんですけど。これからも私たちも本当に魅力的で子供たちが地元に戻ってきたいと、そんな町作りを全力で応援したいなと思ってますので、ご協力いただければなんというふうに思ひます。どうぞ今後ともよろしくお願ひいたします。

2022-2023年度 第10回理事会

日時 令和5年5月11日(木)

【審議事項】

- 1 「アフガニスタンにランドセルを送ろう」
→経過報告、名義後援受理報告
- 2 ロータリー財団寄付について
通例の一人あたり\$50ドルの寄付に加えてポリオプラス基金に一人あたり\$10ドル程度捻出できないか？
→運営状況によって検討する。